

## 長年の功勞により受章

# 國分民衛さんが旭日單光章受章



叙勲受章の喜びを分かち合う、民衛さんと妻のチヨ子さん

國分民衛さん（糠沢字南箕内）は、長年の功績が認められ高齢者叙勲「旭日單光章」を受章しました。伝達式は、12月3日自宅で行われ、吉川三枝子県北地方振興局長と佐藤嘉重本宮市長がお祝いのことばを述べ、同局長が内閣総理大臣からの勲記と勲章を手渡しました。

國分さんは、旧白沢村議会議員として4期16年の長きにわたり在職し、地域振興や農業の発展に貢献されるなど、地方自治功勞者として受章されたものです。

現在88歳の國分さんは、毎日規則正しい生活を送りながら体調を維持し、車の運転もされるほどです。今回の受章については、「名誉ある受章で、感慨無量です。今までお世話になった皆さんには感謝でいっぱいです」と語っていました。



左から三瓶正喜さん、遠藤重孝さん、渡邊幸雄さん

## 税務行政や税知識の普及に貢献 二本松税務署長から表彰状・感謝状が贈呈される

納税表彰式と、間接税申告納税制度施行45周年記念感謝状贈呈式は、11月14日に二本松市で開かれ、本宮市から3人の皆さんが表彰されました。

平成19年度二本松税務署長納税表彰が遠藤重孝さん（仁井田字榊形）と、渡邊幸雄さん（白岩字塩ノ崎）に、間接税申告納税制度施行45周年記念二本松税務署長感謝状が、三瓶正喜さん（本宮字上町）に贈られました。

受賞された皆さんは、各団体で長年にわたり、税務行政や税知識の普及、納税指導に積極的に取り組んでいただいております。その功績が認められての表彰となりました。



市長に受賞の報告をする穀野さん（前列中）、会長の野内さん（前列右）ら菊友会の皆さん

## 大輪の菊花で栄誉 本宮菊友会会員 4年連続の内閣総理大臣受賞

福島県菊花品評大会は11月24日に二本松市で開催され、個人の部で本宮菊友会会員の穀野只信さん（本宮字栄田）の「精興右近」が、最高賞となる内閣総理大臣賞に輝きました。昨年は、妻の節子さんも同賞を受賞。ご夫婦として2年連続、本宮菊友会としては4年連続の受賞という快挙を成し遂げました。

また、今年も節子さんが農林水産大臣賞、菊友会会長の野内勝典さんが総務大臣賞、団体の部では3度目となる優等賞を獲得。あらためて本宮菊友会のレベルの高さを示した品評大会となりました。

野内会長さんら役員の間は12月3日、佐藤市長を訪ね、「菊友会では、菊づくりを通して会員同士が楽しく交流しています。賞も励みになります。友だちづくりにも役に立っています」と受賞の喜びを話していました。

## 本宮市初のプロ野球選手が誕生

# 祝・根本朋久投手 千葉ロッテマリーンズ入団

## 夢のマウンドで もっと高いレベルを目指して



ロッテとの仮契約を終え、父久一郎さん、母星子さんとともにポーズをとる根本投手

### 千葉ロッテから 3巡目で指名

11月19日、ロッテの指名を受け、緊張した表情から一転満面の笑みを浮かべて臨んだ記者会見。「お世話になった人に対する感謝の気持ちを含めて、一日でも早く千葉マリンスターズのマウンドで投げることができるよう努力したい」。中学、高校と無名だった選手が、プロの球団から指名され、喜びを言葉にした。すでに社会人野球入りが内定していた根本投手だったが、自分の力をプロの世界で試し

たいと、プロ入りの意志を表明していた。

「子どもの頃の夢は、プロ野球選手。物心がついたときから野球が好きでした」と語る根本投手。小学校4年生になると和田ソフトボールスポート少年団に入り、白沢中学校軟式野球部で野球を始め、内野手として活躍した。帝京安積高校野球部時代には手首が強いことを監督に見いだされ、ピッチャーに転向した。

その後、横浜商科大学に進み、4年生になった昨年春のオープン戦と、神奈川大学野



根本朋久プロフィール

昭和61年3月21日生まれの21歳。身長178cm、体重77kg。白沢中、帝京安積高を経て、現在、横浜商科大学4年生。

球連盟春季リーグ戦で頭角を現し、「ハマのドクターK」と言われるまでに急成長した。この活躍の原動力となったのが、大学3年秋のリーグ戦で負けたときだと語る。「監督が、もう一人ピッチャーがいないと勝てないと言った。監督の思いに答え、自分がその一人になりたいと思いました」と奮起し、努力を重ねて結果を出した。

この活躍が認められて日米大学野球選手権の日本代表に選ばれ、注目される中で迎えた秋季リーグ戦は、プレッシャーだったに違いない。コーチからは「自分の投球ができたら勝てる」と励まされ、最後の対関東学院大学戦では2勝し、見事4勝を飾って、最優秀投手賞に輝いた。

「自信のある球は直球。直球を基本に投球を組み立てる。直球あつての変化球なので、直球を磨かなければならない」と語り、「プロは厳しい世界だが、任された仕事をしっかりとやって信頼される、結果を残せる選手になりたい。まずは、一軍に上がるのを目指します」と意欲を見せる。

また、現在の根本投手を育ててくれたのは誰かの問いに「ずっと見てきてくれた人たちがいたからこそ、今がある。みんなに応援していただき、感謝しています」と心からの感謝の言葉を口にしている。

そして最後に、根本投手の活躍に励まされている本宮市の子どもたちへメッセージを送ってくれた。「夢や目標を持つてあきらめないで頑張ったとき、結果の善し悪しにかかわらず、得るものがある。それが大切だと思う。夢を持つてあきらめないでほしい」。

夢のマウンドを目指し、新たに大きな世界へ飛び込む根本投手。私たちは故郷（ふるさと）からその活躍を祈っています。写真提供：福島民友新聞社